

四国森林管理局長 殿

四国森林管理局国有林材  
供給調整検討委員会委員長

令和 2 年度第 3 回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の検討結果  
等について

四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会運営要領の 2 の規定に基づき、令和 2 年 1 月 6 日に開催した令和 2 年度第 3 回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の検討結果を報告する。

## 1 検討結果

減産体制をとっていた製材工場等も 9 月頃から徐々に平常稼働に戻すなど、原木需要が高まっているが、川上ではコロナ禍や長雨等の影響で原木生産が需要に追いついていないため、市場では原木の品薄感が目立ち始めている。一方、山からの出材は今後増加すると思われるが、製材品単価が上がっていないなど業態によって今後も厳しい意見があり、需要の先行き不透明感は暫く続く見通しで、需要と供給のバランスを見極めながら対応することが重要である。

このため、国有林における供給調整としては、引き続き現状の対策を継続すること。また、先行きが見通せない中での対応として、今後も原木保管も可能なストックヤードの確保や雇用確保の観点から搬出を伴わない森林整備事業についても検討すること。

## 2 委員会における意見の概要等

- (1) 素材生産業においては、長雨等による生産量の減少から前年同時期並みに戻りつつある事業体は増えているが、コロナ禍の影響で原木価格が例年より下がっているため、事業体にとっては厳しい状況が続く見込み。
- (2) 原木市場等については、低位だった入荷量は増加傾向が見られる。一方、森林組合系統では、原木単価の安値から除伐や切り捨て間伐を行う事業体が出ているため、出荷量は少ない状況が続く見込み
- (3) 原木の荷動き・価格動向については、一部地域では原木の種類によっては高値が付くなど買方の引き合いもよいが、製材品単価が上がっていない状況下で原木の大量入荷があると、再び原木価格が下落することを懸念する。
- (4) 製材工場については、稼働状況は 9～10 月頃から工場によっては平常稼働に戻しているが、原木の入荷が追いつかないなど、製材工場の動きに反して原木の品薄感が目立ち始めている。
- (5) 製材品の荷動きは夏場に比べれば少しずつ好転しており、原木の入荷が少ないものは品薄になるものも出始めている。一方、製材品価格は夏場に値下げして以降、横這いが続いており、製材品の値上げを打診しても反応が薄い。

3 供給調整の実施方法

立木販売箇所の搬出期間の無償延長を継続

4 その他

ストックヤードの確保や搬出を伴わない森林整備事業についても検討